



【八代七浦広報グループ合同特集】

野生鳥獣と向き合う

大切に育てた農作物や豊かな森林が、野生鳥獣に食べられてしまうなどの被害が日本各地で増えています。野生鳥獣による被害は、地域に暮らす住民の生活に大きな影響を与えています。被害を防ぐために私たちに何ができるのか、何をすべきなのか、一度考えてみませんか。

※この特集は、八代市・芦北町・津奈木町・水俣市の広報担当者が協力して作りました。

【写真説明】

1_シカが木に角をこすりつけると、そこから菌が入り木が腐っていきます/2_イノシシが水稲を踏み荒らし、泥浴びをした跡/3_カモ類やカラスによって園芸作物が食べ散らかされています

野生鳥獣の生態と特徴

野生鳥獣による農林水産業や自然環境への被害が問題となっています。今回はシカ、イノシシ、カラス、サルについて、その生態や習性などを詳しくみてみましょう。



シカ

草食性でさまざまな種類の植物の葉や樹皮などを食べます。日中は森林に、夜間は人里に下りますが、慣れると日中も姿を見せるようになります。警戒心の強い動物で、危険を感じると「ピイツ」という鳴き声を出して、仲間へ危険を伝えます。



イノシシ

繁殖力が強く、毎年4~6月頃に平均して4、5頭を出産します。嗅覚がすぐれ、鼻先だけで60%程度のもは持ち上げる力があるとされています。ほとんどの農作物で被害が発生。農作物を食べるだけでなく、踏みつけや掘り起こしも起きています。



カラス

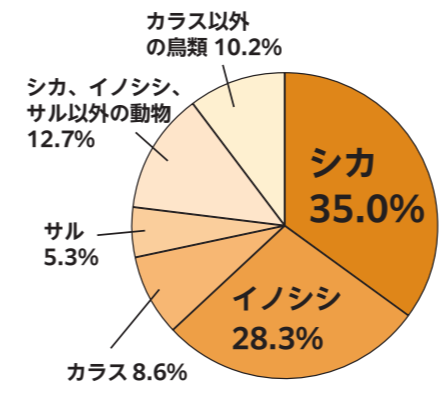
3~7月にかけて巣を作り、一度に3~5個の卵を産みます。ハシブトガラスと、ハシボソガラスの2種類が日本では主に見られます。雑食性で、穀類や果実、昆虫、鳥類の卵やヒナ、残飯、動物の死体までさまざまなものを食べます。



サル

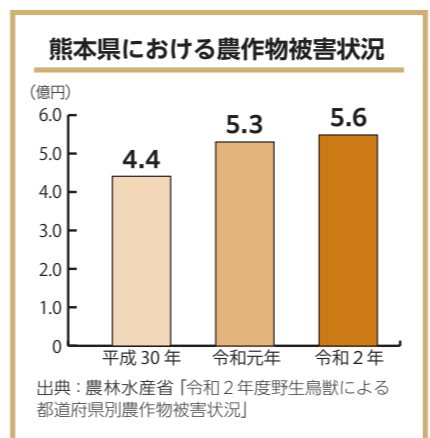
集団で行動し、活動時間は通常、日の出から日没までで、夜間は行動しません。被害は季節を問わず発生し、果物や野菜、水稲、大豆、イモ類などが狙われます。人に慣れると家屋に侵入したり、大胆不敵な行動をとることがあります。

最も農作物を荒らす鳥獣は？



出典：農林水産省「令和2年度野生鳥獣による農作物被害の推移（鳥獣種類別）」

令和2年度の野生鳥獣による農作物の被害額は全国で161億円。そのうち、最も被害額が大きい鳥獣はシカで、全体の35%。被害額の約75%をシカ、イノシシ、カラス、サルが占めています。



鳥獣被害を考える

日本各地で発生し、その解決が求められている鳥獣被害。大切に育てた農作物や豊かな森林が、シカやイノシシなどの野生鳥獣に食べられてしまうなどさまざまな問題が発生しています。熊本県も例外ではなく、県内の野生鳥獣による農作物の被害額は、平成30年度は約4億4096万円で、令和2年度には約5億5782万円で約1.3倍に増加。八代海沿岸では近年カモ類による被害が急増しています。被害は深刻で、農業を営む

人が継続する意欲を失い、農業をやめる選択をするなど、被害額以外にも大きな影響を及ぼしています。深刻化している主な要因は、「野生鳥獣の生息域の拡大」「狩猟による捕獲量の低下」「耕作放棄地の増加」などです。その1つ、野生鳥獣の生息域は「いつでもエサが食べられる」「隠れられる場所がある」「捕まらない」の3つの環境がそろうことで、野生鳥獣にとって安住の地となり、拡大してきます。

置かれたお供え物などを放置することで、野生鳥獣の餌になります。環境その2 野生鳥獣が隠れられる場所がある 雑草や草木が生い茂り、見通しが悪いと、動物の隠れ場所や餌を食べる場所になります。環境その3 捕まらない 防護柵を設置するときに、囲い方が一部であったり、柵と地面の間に隙間が開いたりすると、防護柵としての機能が発揮できず、野生鳥獣の数を減らすことができません。

鳥獣被害を地域ぐるみで防ぐ

地域で起きている鳥獣被害に対して、田畑や里山を自らの手で守ろうと立ち上がった人や団体の活動を紹介します。活動の様子や、やりがいについて聞きました。

くまもと☆農家ハンター

他人事ではなく自分事として

平 成28年に「地域と畑は自分たちで守る」をテーマとして、田畑を荒らすイノシシを駆除することを目的に、くまもと☆農家ハンターを立ち上げました。きっかけは私の母が「農業をやめようと思う」と話したことです。数年前から深刻になっていた、イノシシによるミカンの被害を受けての言葉で、これまで他人事だったことが一気に自分事を感じた出来事でした。立ち上げ時から「学ぶ、守る、捕る」をテーマに県内の高校や被害に悩む地域へ出向き、現地での実践などを通し、対策の有効性を訴えてきました。



プロジェクトリーダー
稲葉 達也さん
(宇城市)

令和3年からは新たに、獣×農×島(ケモノノシマ)を始めました。これは、命の尊さ、自然の美しさを体験できる「ジビエツーリズム」で「ここにしかない本物の体験」を子ども向けに提供しています。活動を始めて6年が過ぎました。今後も各地域の模範となる若手リーダーの育成や、新たな取り組みにも積極的に挑戦していきたいです。



狩猟技術向上研修で高校生にわなの設置方法を指導する稲葉さん

熊本県立芦北高等学校

私たちの山や畑は私たちが守る

芦 北高校の鏡山演習林では、シカによる樹木被害が深刻化しているため、個体数の調整や鳥獣が近寄らない方法を模索しています。

10月に開かれた狩猟技術向上研修で鳥獣被害が他人事でないということを感じました。本校の農場では、イノシシによる収穫直前の稲や野菜の被害、デコポンを栽培している果樹園にはシカの被害も見られました。さらに、車や列車などの事故も増えていることも初めて知りました。



講習会で講師を務めた稲葉さんの話を真剣に聞く生徒たち

するために、農家ハンターを結成。「私たちの畑は、私たちが守る」をスローガンに、捕獲したイノシシをジビエなどに利用されています。稲葉さんに指導いただきながら、被害の多い場所に箱わな1基とくくりわな2個、通信式カメラを設置しました。2日後に箱わなで4頭のイノシシの捕獲に成功しました。



箱わなを協力して設置。高校の農場まで運ぶだけでも一苦労

えづけストップで鳥獣被害対策

淵上ライスセンター

水 俣市桜野では、米を中心に作付けをしています。以前からイノシシ被害があり、電柵を設置し対処してきましたが、防ぎことができず、地域で頭を悩ませていました。

そこで取り組んだのは、相手を知ることです。県の「えづけストップ」の取り組みで、住民が集まってイノシシ対策の専門家を招き、イノシシの特性や電柵の有効な設置方法を学びました。地域として取り組む必要性を感じ、地域の田畑全体を囲えるような大型の電柵を設置。共同購入となりましたが、共通の悩みを抱えていたことや、補助金があったため、理解を得ることができました。

最近では、大型の獣も防ぐことができるよう、より強力な電圧に変更。しかし、電柵も草が伸び放題では放電し効果を発揮しません。集まりが



代表
淵上 弥生さん
(水俣市)

あったときなどに草木の管理をするよう、住民同士で声をかけ合います。この他、イノシシのひそみ場の除去や最近増えてきたシカには高い網を設置、猟友会にも捕獲の依頼をするなど対策を取っています。



電柵や網を設置し、被害を軽減

株式会社 DREAM EARTH

自然で育った命を利活用する

自 然環境の変化と向き合い、共生し、できる限り利活用することで、多くの人にイノシシやシカのことを理解してほしい。そんな思いからジビエの加工販売を始めました。

当社では、近隣の処理施設や猟師から、下処理されたシカやイノシシを買い取り、人の食用やペットフードに加工しています。ペットフードは無添加で、愛犬の体にも安心です。ただ、ジビエは自然のものなので、個体差があり、食用として活用できない個体や部位があるのも事実です。ほとんどの処理施設では、ももとロース以外の部分は捨られてしま



同社の解体処理加工施設



カットしたジビエを乾燥させてペットフードに加工します

います。しかし、当社では命を無駄にしないため、高い加工技術を生かして、できる限りいろんな形で提供してきました。

おいしくて安全なジビエを提供するため、誰がいつ捕獲したのかを記録して個体を識別したり、捕獲状態が悪いものは使わないなど、徹底した品質管理を行っています。



企画営業
吉永 美香さん
(八代市)

ジビエは動物がかわいそうという声もありますが、捕獲しなければ、農作物を荒らされるなど、大きな被害が出ます。命を無駄にしないための取り組みが必要とされている現状を、皆さんにも理解してほしいです。



地域の鳥獣被害に向き合う若いチカラ 野生鳥獣から田畑を、地域を守りたい

芦北町で野生鳥獣対策に取り組む地域おこし協力隊の渡邊義文さん。
狩猟をするうえでさまざまな思いや心の葛藤があると言います。
最近の野生鳥獣の急激な増加にはどのような要因があるのか、
渡邊さんに現状や今後の展望について聞きました。

地域を守り、動物と生きていく
私たちが住んでいるまちには多くの野生動物が生息しています。地球温暖化による自然環境の変化や、人の居住区域の拡大による生活環境の変化などで、野生動物の一部が市街地に出て来て人とのトラブルが多くなっています。
私たちは、自然環境の維持や農林水産業の発展、安心な生活環境の確保のため、やむを得ず鳥獣の命を奪うことがあります。そのときに生態系の一員として、自然の微妙なバランスの中で生きていることを自覚し、動物を大切に思い、そのような命と引き換えに私たちの生活や社会が成り立っていることに感謝の気持ちを忘れないことが大切です。
野生鳥獣対策はすぐに効果が出るものではありません。私たちが互いに協力しながら、地域ぐるみで野生鳥獣を寄せ付けない環境づくりが必要です。被害の防止と共生を目指すためにも、一人一人が対策について意識を高めましょう。

令和3年8月から芦北町の地域おこし協力隊に「有害鳥獣対策業務」担当として着任しました。着任後すぐに狩猟免許を取得。「捕獲」を中心に活動しながら、小学校や高校へ出向いて、里山保全や捕獲などの授業をしました。今年度から猟友会芦北支部の事務局長を務めています。

鳥獣を捕まえた瞬間はうれしく、地域の人にも喜んでもらえることから、最初は夢中で捕獲していました。もちろん、都会では高額な「ジビエ」がここでは無料で手に入ることも魅力に感じました。
しかし、次々に鳥獣が捕獲されるので、とうとう解体処理が追いつかない状況になってしまい、仕方なく山中へ埋めることが多くなりました。このような状況が続き、ただ命を奪うだけの罪悪感からか、心が苦しめられるようになり、一時体調を崩したこともありました。
現在、里山里山では、離農者や耕作放棄地の増加、過疎や高齢化など農村が抱える問題と共に、地球温暖化による



芦北町地域おこし協力隊 渡邊 義文さん (芦北町)

個体の越冬可能地域の拡大など、あらゆる問題が複合的に重なり、野生鳥獣が増えているのではないのでしょうか。
今後の目標として、獣の有効活用、狩猟者の増加につながる活動、わなの見回りや各事務手続きの負担軽減のためのIT（情報技術）やICT（情報通信技術）の活用、各種講習会の開催などに取り組みたいです。狩猟の楽しさやジビエのおいしさなど、自然や食と触れ合う魅力を広めていくため、現地とインターネットを使ったつながりづくりにも、併せて力を入れます。
これからも、地域内外に関係性を保ちながら、少しでも野生鳥獣対策が前進するよう努力していきたいと思えます。

鳥獣対策の鉄則！3つの柱

第1の柱 個体群管理



鳥獣の捕獲

第2の柱 侵入防止対策



刈払いによる餌場・隠れ場の管理、放任果樹の伐採

第3の柱 生息環境管理



わなの設置などによる被害防除

野生鳥獣による被害への対策方法
野生鳥獣対策は**個体群管理**、**侵入防止対策**、**生息環境管理**の3つが基本です。この対策を地域ぐるみでいかに徹底してできるかが、対策の効果を大きく左右します。

出典：農林水産省鳥獣被害の現状と対策（令和4年10月）